

BPW Newsletter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Clubs of JAPAN



2015.2.22

Vol.111

【特集】

ジェンダーギャップ解消にむけて

CONTENTS

- 2015 年を BPW 年に！
日本 BPW 連合会理事長 名取はにわ
- ジェンダーギャップの解消へ
企画委員長平松昌子
ジェンダーギャップ指数の改善に
向けてのイベント
【第1弾】 105位！？
日時:2014年9月16日(火)
会場:日本女子会館
【第2弾】 まだ104位！
日時 2015年2月1日(日)
会場:東京ウイメンズプラザ
- 国連女性の地位委員会(CSW)
・企画参加
・7名のインターンを派遣
- ブロック研究会報告
・北海道・東北
・西日本
・関東・山梨
・近畿
・中部
- イコール・ペイ・デイ全国会議
今年のEPDは4月10日です。

日本BPW連合会ニュースレター

発行人:名取はにわ

編集:広報委員会

日本BPW連合会事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木

2-21-11 婦選会館 303

TEL. 03-5304-7874

FAX. 03-5304-7876

E-mail: office@bpw-japan.jp

ホームページ:

<http://www.bpw-japan.jp>

2015 年を BPW 年に！

特定非営利活動法人日本 BPW 連合会理事長 名取 はにわ

今年2015年は、北京で開催された第4回国連世界女性会議から20年、日本が女子差別撤廃条約を批准してから30年、第1回国連世界女性会議から40年、婦人参政権から70年の節目の年です。

こうして見ていくと、日本の女性たちは、世界の風を受けて進んできたことがわかります。

婦人参政権も、アメリカの占領下で作られた憲法によって獲得されましたが、これはアメリカから押し付けられたものでなく、日本側から先に提案されたものであるという証拠文書が国立公文書館に保管されており、見たことがあります。市川房枝さん達が、戦前から熱心に活動し、何度も国会に上程された賜物だと思います。

今から40年前の1975年を、国連は国際婦人年とし、その翌年から10年間を国連婦人の10年として、女子差別撤廃条約の採択など、女性の地位向上に努めました。

日本も国連の呼びかけに答えて各種の制度改革をしてきましたが、その速度や本気度は、他の国々から見れば、鈍かったと思います。

それはなぜでしょうか？

個人的な考えですが、当時日本は、男性中心に急速な経済成長を遂げていたからだと思います。つまり、男性たちは、自分たちは24時間働くことができるが、結婚したり子どもを生んだりと一々面倒な女性はさほど必要ないと、考えていたからです。

そして多くの女性たちも、右肩上がりの経済成長期に、サラリーマンの妻として3食が保証されている専業主婦業に吸い込まれていきました。団塊の世代こそ、歴史上日本で最も専業主婦の多い世代なのです。

このように、日本においては、「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担を実現しながら、世界第2位の経済大国になりました。

歴史を見てみれば、今日の長所は明日の欠点になるということはよくあります。何よりも問題なのは、成功体験ほど人の目を曇らせることはないということです。

必死に働き続けて成果を出した男性たちは社会の様々な主要地位に座り、物事を決定することになったのですが、やがて日本に子供が生まれなくなっても、女性が社会進出したせいだと信じていました。最近の父親たちが育児に参加したい気持ちを持っているなど、想像もつきません。ですからワーク・ライフ・バランスは実現せず、働く女性も正社員として長時間労働をするか、非正規雇用で低賃金に甘んじるしかないのです。

女性が活躍できる制度が進んだと言いましたが、このように日本では必ず女性の活躍を阻むブレーキも踏まれています。

一方他の先進諸国では、50年前には日本と同様「男は仕事、女は家庭」という考えは強く、多くの国では日本より専業主婦率が高かったのですが、労働力不足により女性が社会参加を促されました。そして、女性が働きながら子供を産み育てられるような制度の工夫がなされてきました。女性が外で働くには、家事育児介護をどうするかというのが問題ですが、パートナーの男性が負担できるように様々なワーク・ライフ・バランスが進んできたのです。様々な両立支援策、様々なポジティブ・アクションが実現しています。

これらの制度がうまくいった国々では出生率もV字回復しています。

その中で、日本は女性の社会進出はあまり進まないのに、少子化だけが進んだ国なのです。一人日本は取り残され、毎年、世界経済フォーラムから公表されるジェンダーギャップ指数によると、日本は先進諸国でほぼ最下位なのです。

その日本も、経済力を維持するには、もはや女性たちに頼るしかない状況に追い込まれてきました。女性たちが無理なく働きながら子育てもできる時代を作るチャンスが到来したともいえるかと思えます。

世界中にお手本はいくらでもあります。

だからこそ、世界とつながるBPWは張り切って進んでいきましょう。

ようやく時代が私たちに追いついてきたのですから。2015年をBPW年にしましょう。



国際比較で最悪！？

日本のジェンダーギャップを解消するために

企画委員長 平松昌子

昨年(2014年)日本BPW連合会は、男女の格差を解消するために、【ジェンダーギャップ指数】の136か国中105位という数字と取り組むことになった。

それは、安倍総理が「女性が輝く社会作り」を、自政権の重要政策課題と位置づけることを公言し、公務員の採用や昇格での対応に指示を出したとか、財界人との会談で女性の取締役を増やすよう要望したとかの報道が再三伝えられたことが発端である。

その安倍総理は昨年春、世界経済フォーラムに招かれて講演し、女性政策に力を入れると発言して拍手を浴びたと伝えられたが、その世界経済フォーラムが毎年発表しているジェンダーギャップ指数(GGGI)によると日本の位置は136か国中105位なのである。

ダボス会議(世界経済フォーラム)でみせた総理の得意顔をみながら、日本のジェンダーギャップ解消への道具としてこのGGGIのデータを使っても、文句はあるまいと思った。

その時点でまだ、ダボス会議と呼ばれる世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数の数字はあまり活用されていなかった。

だからこそ、このデータを使って、男女格差の解消に向けて関係方面に働きかけよう、

そのためには、①データを理解し、②その数字改善を目指して議論し、③出された意見を提言にまとめ、④提言を持って関係方面に対応を求めていくという路線が浮かび上がった。

「105位からの挑戦」

BPW連合会として予算立てをしていなかった。そこで会場については公益財団法人日本女性教育財団に共催をお願いして会場の提供をお願いし、合わせてパネリストの一人に財団の理事長をお願いした。

こうして、【105位からの挑戦】とタイトルをつけたシャインウィークス公式イベントとして、2014年9月16日(火)に東京浜松町の日本女子会館大会議室で開催することが出来た。

ジェンダーギャップ指数は、政治、経済、教育、健康の4つの分野から出された数字で構成されている。その算定にはそれぞれの指標が。

- ★政治における格差＝政策決定の最高機関への男女格差→内閣(大臣)の男女比率。国会議員(衆参両院)の男女比率。過去50年の首相・大統領の女性数と年数。
- ★経済における格差＝就労の男女格差、賃金(所得)の格差、昇進等の男女格差。
- ★教育の機会に関する格差＝識字率の格差。初等教

- 育、中等教育、高等教育への進学率の男女格差。
- ★健康と生存に関する格差＝出生時の男女格差、健康余命の男女格差

こうして計算された数字は、あくまでも男性と女性のギャップを示すものであって、個々の高さを示すものではない。

また、ジェンダーギャップが無ければ指数は1となり、4つの指標を軸にして表示すると、格差が無ければ1で、すべてなければ正方形になる。

日本の指数	世界の順位	世界1位と指数
全体 0.6498	105位	アイスランド 0.8731
政治 0.0603	119位	アイスランド 0.7544
経済 0.5841	104位	ノルウェー 0.8357
教育 0.9757	9位	オーストラリア他 24カ国 1.0000
健康 0.9791	34位	アンゴラ他 32カ国 0.9796

従って、日本は教育程度が高いと思っていたが、高等教育、すなわち大学などへの進学率では、世界の中では男女格差が目立ち、ランクが引き下げられている。健康は、寿命はでは世界1を採っているが健康寿命では、決して高くない。

こうしたデータを下に議論し、それを提言として関係省庁や国会議員を訪問して、直接説明し、提言を政策に反映してほしいとお願いした。

その作業が漸く一回り済んだと思ったその日に、2014年度の新しい数字を世界経済フォーラムが発表した。その数字によると日本の順位は104位で、前回の2013年次の105位から前進している。たった1位の前進?と思ってよくみたら政治の分野では118位から129位と大幅ダウンしていた。

この現状をどうするか?

2月1日に「まだ104位!？」というテーマでイベントを開催することになった。

「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」シャインウィークス公式サイドイベント

105位からの挑戦

～日本のジェンダーギャップ指数は136か国中105位です～
 <世界経済フォーラム(ダボス会議)2013年報告による>

日時 2014年9月16日(火)13:30～16:30

会場 日本女子会館5階大会議室
 (公益財団法人日本女性学習財団)

ジェンダーギャップ指数(GGGI)の改善に向けて 第2弾

まだ104位!?

～女性が輝く社会?世界ランキング104位はまずいでしょ～
 <世界経済フォーラム(ダボス会議)2013年報告による>

日時 2015年2月1日(日)13:30～16:30

会場 東京ウィメンズプラザ 視聴覚室

※詳細は連合会HPをご覧ください

第 59 回国連女性の地位委員会
UN Commission on the Status of Women
インターン派遣事業
2015 年 3 月 9 日(月)～20 日(金)

国際委員長 花崎 正子

第 59 回「国連女性の地位委員会(「北京+20」)」へ 7 名のインターンを派遣することになった。

現在、BPW おいて、次代の育成は喫緊の課題の1つであり、インターン派遣はアントワネット元国際ショナル会長のアドバイスで開始され、日本 BPW 連合会では 12 年目となる。今年は会員の皆さまの幅広いご協力、多くの応募者があり、うち工藤遥さんをはじめ北海道から九州、米国留学中の大学院生・大学生まで 7 名が CSW への切符を手に入れた。そして、東北・北海道ブロック研究会、西日本ブロック研究会、近畿ブロック研究会の懇親会では、ご出席の皆さまよりインターン派遣事業費として合計 80,540 円のカンパを頂いた。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

第 59 回国連女性の地位委員会は、「北京+20」をテーマとして、3 月 9 日から 20 日までの日程でニューヨークの国連本部で開催される。今年が、1995 年に北京で開催された第 4 回世界女性会議において、「北京宣言」及び「行動綱領」が採択されてから 20 年の節目の年であり、これまでの活動成果の確認やさらなる課題の検証について論議される。

この「北京宣言及び行動綱領」は、「女性 2000 年会議」で採択された「政治宣言」・「成果文書」を含め、女性の地位向上のための国際基準となっており、とくに、女性の地位向上とエンパワーメントを達成するために優先的に取り組むべき 12 の重大問題領域(貧困・教育・健康・暴力・武力闘争・経済・意思決定・仕組み・人権・メディア・環境・女兒)を特定した「行動綱領」は、我が国の男女共同参画社会の推進に大きな影響を与えてきた。

今回はさらに北京会議にはそれほど問題ではなかった新たな課題も論議の対象ともなっているという。本会議で検討される世界の最新の課題検証と、国連周辺で開催されるイベントやフォーラムで各国・地域の個別の情報提示などにより、我が国の男女共同参画推進のあり方にさらなる発展が見込まれている。

そのような節目の年であり、多くの参加者が予測されてか、今年は参加者全員登録が呼びかけられた。昨年の参加者は 3000 人とも 5000 人とも言われたが、今年は 2 月 12 日現在での登録が、1100 団体、個人 8600 人、サイドイベント 188、パラレルイベント 450 であり、世界の人々の関心の高さが窺える。日本 BPW 連合会からも平松昌子国際委員長を団長とし、青木憲代会員(東京クラブ)、武井涼子会員(東京クラブ)、高橋信枝さん、梅若幸子さん、田中健さん、武井いさ子さん、私、の 8 名と、インターン 7 名計 15 名が参加する。

注目すべきは、サイドイベント(テーマ「高齢社会と女



性のエンパワーメント」、場所:国連構内ハマースョールド講堂)とパラレルイベント(テーマ「日本文化と女性のエンパワーメント(略称)、場所:アルメニアンホール)の開催による日本のアピールである。サイドイベントでは、平松企画委員長が、政府代表団に NGO 代表顧問として加わり、パネリストを務められる。パラレルイベントでは、武井涼子会員が歌や伝統工芸家とピアニストの方々とのコラボで具体的事例を用いたパフォーマンスをされる。

※詳しくは、BPW International UN-link

<http://bpw-international.org/ny-side-events>

こうして、CSW の情報を、会員の皆さまとインターンの方々を含め共有できることが、BPW の目的であるジェンダー平等実現と女性のエンパワーメントをさらに促進できると感謝する次第である。

第 58 回国連女性の地位委員会
派遣インターン生企画
『若者の働き方に関する調査』

中部ブロック研究会において、昨年の CSW58 インターン家田菜穂子さんが、帰国後にインターン派遣仲間たちがインターネット上で実施した『若者の働き方に関する調査』の結果を報告した。

調査目的は、若い世代がこれからの『働き方』について、何を求めているかを明らかにし、日本のジェンダーギャップを埋めるために本当に必要な変化を提案すること。これは、ニューヨーク滞在中にホテルの一室で開いたミーティングでのインターン同士の会話から自然発生的に問題提起されたことが現実となったものである。

調査対象は 20 歳代～30 歳代、100 名。しかし、40 歳代以上で回答頂いた貴重なデータも比較のために用いられている。詳細は、会報 46 号で報告。

CSW 派遣の若いインターンたちの今後がさらに期待されることである。



2014 年日本 BPW 連合会 ブロック研究会
ヤング・スピーチコンテスト&講演会

<Topic 1>

東京クラブ林乙羽さんが、コングレスでの活躍が認められ、YBPWI Asia-pacific Regional Representative に任命されました。今後の活躍を期待いたします。
—2014. 10. 6. —

<Topic 2>

JWLI(日本女性指導者育成事業)第9期募集が始まりました。詳細は連合会HPまたは各会長へ
—2015. 1. 20. —

<Topic 3>

BPWアジア・パシフィックリージョナルミーティングが開催されました。
日時:2015年2月22日~23日
開催地:カトマンズ(ネパール)
—2015. 2. 22. —

<Topic 4>

厚労省より平成 26 年度賃金構造基本統計調査が公表されました。
今年のイコール・ペイ・デイは、
4月10日です。
—2014. 2. 22. —

<Topic 5>

2015 年東京大会のご案内
日時:2015 年 5 月 23 日~24 日
会場:京王プラザホテル
講演:トークトーク
「女性とサイエンス」(仮題)
向井千秋さん(宇宙飛行士)
大倉多美子さん(科学者)
※宿泊予約は各自でお早めに!

「女たちの、女たちによる仕事づくり」
復興支援金
日本BPW連合会は今後も復興支援を続けていきます。皆様のご協力をお願いいたします。
■郵便局からのお振込の場合
記号 10080
番号 32423911
口座名 トクヒニホンビーピーダブルレンゴウカイ
■銀行からのお振込の場合
ゆうちょ銀行
店名 ○○八(ゼロゼロハチ)
店番 008
普通預金
口座番号 3242391
口座名 トクヒニホンビーピーダブルレンゴウカイ

- ◆北海道・北ブロック (担当:札幌クラブ)
多様性は社会を元気にする~未来のために、私たちができることを。
日時:2014年9月27日(土)13:00~ 会場:札幌グランドホテル
第1部 シンポジウム&パネルディスカッション
基調講演『新聞社で働き続けて』
講師 宇佐美暢子氏 (株)エフエム北海道代表取締役社長
第2部 ヤング・スピーチコンテスト&JWLI について
- ◆西日本ブロック (担当:長崎クラブ)
女性の力がビジネスをリードする
日時:2014年10月26日(日)13:00~ 会場:長崎市立図書館
第1部 ヤング・スピーチコンテスト&JWLI 報告
第2部 講演&パネルディスカッション
講演『私の挑戦...ビジネスで社会を変える、人を支える』
講師 内田輝美さん (有)湯江タクシー代表取締役
- ◆関東・山梨ブロック (担当:山梨クラブ)
女性にやさしい、女性が活躍できる職場を目指して~WEPs~
日時:2014年11月9日(日)13:00~ 会場:甲府市役所
◎ヤング・スピーチコンテスト
◎基調講演 酒井香世子氏内閣府男女共同参画局政策企画調査官
◎パネルディスカッション
◎JWLI について
- ◆近畿ブロック (担当:大阪クラブ)
女性の力がビジネスをリードする
日時:2014年11月22日(土)12:00~ 会場:帝国ホテル大阪
第1部 オープニングコンサート
第2部 講演『輝く女性のために』
講師 長尾依子女史 (株)社会教育総合研修代表取締役
第3部 ヤング・スピーチコンテスト
名器アンドレ・グアルネリの演奏 東健三史
- ◆中部ブロック (担当:名古屋クラブ)
経済に活力を与え、地域を活性化し、世界に活躍の翼を広げよう
日時:2015年2月7日(土)13:00~ 会場:中日パレス
ヤング・スピーチコンテスト
講演『福よせ雛で街づくり9人の女性の奮闘記
~名古屋より東北・女川をめぐるフランスまで~
講師 吉野孝子さん古裂武術工房会長・福よせ雛プロジェクト主宰
連合会企画委員長からのメッセージ『女性たちに元気を!』

≡ ≡ ≡ < 予 告 > ≡ ≡ ≡

イコール・ペイ・デイ全国会議 ~賃金におけるジェンダーギャップ解消を目指して イコール・ペイ・デイ運動を広げよう!
【講師】大沢真知子氏
(日本女子大学人間社会学部現代社会学科教授)
【日時】2015年4月18日(土)13:30~
【会場】婦選会館ホール 渋谷区代々木2-21-11
【後援】内閣府男女共同参画局・厚生労働省(予定)

